

# 社会科学習指導研究委員会

## 一 テーマ

社会的事象を身近な事象と捉えることを目指して ～地域教材を生かした授業づくり～

## 二 テーマ設定の理由

今日教員には、子どもたちに基本的知識や技能を確実に習得し、主体的に粘り強く学習に取り組む力を育むことが求められている。社会科学習指導研究委員会では、この「子どもの主体的な学び」について「なるほど！そういうことか！」「よし、できた！」など、子どもたちの「わかる」や「できる」といった喜びが学びに対する意欲の高まりや思考の深まりとなり、その積み重ねが子どもたちの主体的な学びにつながるのではないかと考える。

そのために、全ての子どもが社会的事象を「身近」なものとして捉え、自分事として主体的に取り組む力を育むため、地域素材の“もの・ひと・こと”をどのように生かしていけばいいのか、素材研究を含めて研究する。教材研究と併せて、地域素材を用いたことが、子どもたちの学びとどう結びついたのかについて、実際の子どもの姿から考察していき、小・中の事例をもとに研究し、子ども一人ひとりの「自分事」として物事に迫ったものにしたいと考え、本テーマを設定した。

## 三 研究の経過

本年度は、上田市立中塩田小学校と上田市立第六中学校の授業と教育課程研究協議会の午後の研修を通して、研究テーマである「社会的事象を身近な事象と捉えること」について、委員や参観者の視点から語られる子どもたちの学びの姿について迫っていった。

## 四 研究の内容

### 1 中塩田小学校（社会科部会）の実践から

(1) 研究テーマ 子どもたちが思わず語り合いたくなる社会学習をめざして

### (2) 研究の概要

「子どもたちが思わず語り合いたくなる」という研究テーマを受け、児童の興味・関心を深め、友と語り合い、自分事として、意見や考えを発信する姿につながるのではないかと考え、身近な地域素材である『保野祇園祭』を題材とした学習を取り入れて研究を行った。

特に、児童が主体的に学ぶ姿を目指し「導入での資料、題材との出会い方」「人と関わる活動（聞き取り調査）を単元展開の適切な箇所に設けること」「自分自身や地域へ返すこと」の3つの観点を大切に研究を行った。

### (3) 指導案

単元名 「受けつがれる保野祇園祭と人々の願い」

#### 単元設定の理由

塩田地域には、保野祇園祭、盆祭り、どんど焼き、道祖神祭りなど、古くから伝わる年中行事や有形・無形文化財が多く存在する。保野地区で古くから行われてきた「保野祇園祭」に関しては、その中で行われる「ささら踊り」を運動会の全校ダンスにも取り入れている。

4年3組の子どもたちは、地区ごとの児童会行事や年中行事に進んで参加している様子が見られる。一方で、保野地区に住む子どもがいないため、「ささらはわかるけど、ししまいはわからない。」と感じている子どもが多い。全校児童の中には、ささら舞に参加する女子児童が何人もいる。参加している理由を尋ねると「親が役員だからやっている。」や「何でやるのかはよく知らない。」と答える子どもも見られた。古くから伝わる伝統的な行事を保存・継承していく人々の工夫や努力、願いに関心を寄せるまでには至っていない子どもが多いことがわかる。

そこで、保野祇園祭の由来や歴史、これまでの取り組みのほか、そこに関わる人々の工夫や努力、願いについて調べる学習を取り入れ、その中で、保野祇園祭を現在まで守り続けてきた意味、保存・継承に力を尽くす人々がもっている願いの実現のために自分たちにできることなどを考えさせたい。また、これらの学習は、実際の様子や物を見たり触れたり、人と関わる活動（聞き取り調査）をしたりしながら、保存・継承に携わる人々の伝統を守り続ける思いを捉えさせたい。

このような学習によって、保野地区の人々の願いを考えるとともに、自分自身も塩田地域の一員として、古くから伝わる年中行事に対して、主体的な参加になったり、これからの保存・継承を自分事として考えたりしてほしいと願い、本単元を設定した。

#### 単元の目標

保野祇園祭、県内の文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分ができることを考えようとする態度を養う。

#### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などについて、携わる人からの聞き取りや資料などから必要な情報を集め、読み取り、保野祇園祭、県内の文化財や年中行事の様子	①歴史的背景や現在に至る経過、保存・継承のための取組などに着目して問いを見だし、保野祇園祭、県内の文化財や年中行事の様子について考え、表現している。	①保野祇園祭や県内の文化財や年中行事について、予想や学習問題を立て学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②保野祇園祭に込められた人々



<p>聞き取り調査をする見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保野祇園祭保存会長さん（原さん）</li> <li>・獅子の舞い手の方（石井さん）</li> </ul> <p>○保存会の方々に聞きたいことを考える。</p> <p>原さん…保野祇園祭保存会会長，獅子舞の師匠 石井さん…保野祇園祭保存会，雄獅子の舞い手</p>	<p>計画を考えるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保野祇園祭に携わる方に聞き取り調査をしてまとめるという見通しをもたせる。</li> </ul> <p>【思・判・表①】【態①】</p>		
<p>○保野祇園祭に関わる方からお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かぶり物は思ったより軽いな。</li> <li>・獅子舞のかぶり物は古いにおいがする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>保野祇園祭はいつ始まり，現在までどのような取り組みをしてきたのだろう。</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りに使う道具に触れさせたり，においを感じさせたりする。</li> <li>・道具は大切に扱うことを指導する。</li> </ul> <p>【知・技①】</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使われる道具</li> <li>・原さんのお話</li> <li>・石井さんのお話</li> </ul>
<p>○保野祇園祭に込められている願いや由来について聞いたことを基にまとめ，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・470年近く続いているお祭り。</li> <li>・形を変えてはいけないお祭り。</li> <li>・「疫病退散」や「五穀豊穰」のため。</li> <li>・保野地区の人たちで守ってきた大事な祭り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保野祇園祭について具体的な様子を捉え，聞き取って分かったことを整理し，まとめるよう促す。</li> </ul> <p>【知・技②】</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習や本番の映像</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>保野祇園祭は，今日までどのように守り続けられてきたのだろう。</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手が減少していることに気づかせる。</li> <li>・祇園祭を保存・継承している人々の努力に気づかせる。</li> </ul>	6	
<p>○保野祇園祭の保存・継承の取り組みについて聞いたことを基にまとめ，発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと昔から，人から人へ練習をしながら受け継いできた。</li> <li>・人数が減ってきて，これから続けていけるか困っている。</li> <li>・昔は保野地区みんなで役割を分けていた。</li> <li>・今は保存会を作って保存・継承している。</li> </ul> <p>○聞き取り調査を通して，思ったことや感じたこと，新たな疑問やまだ解決できていないことを話し合い，学習問題を再設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめる中で，疑問や解決できない点を色分けするよう助言する。</li> <li>・保野祇園祭に携わる人々の減少など困っている点に着目させる。</li> </ul> <p>【知・技②】</p>	7	
<p>【思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大昔から続いてきていてすごい。</li> <li>・お師匠の人は長い間受けついでいる。</li> <li>・継承する人が少なくなっていて困っている。</li> <li>・なんとか存続させようとしている。</li> <li>・伝統を守り続けようとしている。</li> </ul> <p>【解決できていないこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変なことをなぜ続けているのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祇園祭を今も守り続けている理由を予想し，発表するよう促す。</li> <li>・自分たちの問題として捉えるために，これからどのように保存・継承していったらよいか考えるよう促す。</li> </ul> <p>【思・判・表①】【態①】</p>		



<p>・自分たちで考えたことを、地域の方にも伝えたいな。</p> <p>○保存会の方や保護者に、盈進祭りで学習したまとめや自分たちの考えを発表する（盈進祭りは、PTA主催で行う学校祭。本校は9/14（土）に行う予定である）。</p>	<p><b>【思・判・表②】【態②】</b></p> <p>・これまでの学習を基に、自分たちが伝統文化を大切にしていけることが伝わる発表になるよう助言する。<b>【態③】</b></p>	11	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>保野祇園祭と同じように、塩田地域や長野県内には、受けつがれてきた文化財や年中行事はあるのだろうか。</b></p> </div> <p>○塩田地域や長野県内にある文化財や年中行事について、知っていることを発表する。</p> <p><b>【塩田地域】</b>・生島足島神社　・五加八幡社など</p> <p><b>【県内】</b>・善光寺（長野市）　・松本城（松本市）</p> <p>○調べたものを、年表や白地図にまとめる。</p>	<p>・地図帳を使い、大まかな県内の文化財の位置を提示する。</p> <p>・映像資料で県内の文化財や年中行事の様子を提示する。</p> <p>・塩田地域の行事と県内行事を比較しながらまとめていくよう助言する。</p> <p><b>【知・技②】</b></p>	12	<p>・のびゆく郷土</p> <p>・上田市誌の写真</p> <p>・地図帳</p> <p>・わたしたちの上田市</p>

## 本時案

### 主眼

保野祇園祭のこれからについて、守り続けていくための作戦を各自で考えた子どもたちが、班で改めて作戦を考える場面で、友の考えの根拠を自分の考えと比較し合ったりこれまでの学習や伝統を守り続けてきた人々の思いを踏まえて作戦を練り直したりすることを通して、保野祇園祭と自分とのかかわり方や地域の伝統を守ることを意味について考えを深めることができる。

### 本時の位置（全12時間中の第10時）

前時：伝統を守り続けてきた人々の思いについて、聞いたことを基にまとめ、保野祇園祭を守り続けていくための作戦を各自で考えた。

次時：自分たちの考えた作戦を地域の方や保護者、全校などに向けて発表する。

### 指導上の留意点

- ・今までの授業の内容を壁に掲示し（学習の足跡）、これまでの学習や地域の方の思いを想起させる場面で、班で行動させながら、本時と関わりのある学習を話し合いながら振り返るよう促す。
- ・一人一人の作戦を班で一つの作戦に練り直す場面では、各自の考えが消えないように、ホワイトボードに各自の立場や思いの根拠を視覚的に示させる。

### 展開

段階	○学習活動・予想される児童の反応	指導 評価 <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> </span>	時	資料
問題の把握	<p>○学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【学習問題】</b> これからも、保野祇園祭を守り続けていくために、自分たちにできることは何かな。</p> </div> <p>・自分の考えを班のみんなにわかってもらいたい</p>		3	

<p>握 問 題 の 究 明</p>	<p>らえるように伝えたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながどんなことを考えているのか気になるな。</li> </ul> <p>○班の中で、自分の作戦を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生や中学生、高校生も参加したらどうだろう。</li> <li>・みんなが練習に参加できるように、学校の行事みたいにしたらどうだろう。</li> <li>・保存会の人をもっと増やして、保野地区以外の大人をもっと関わってみんなで守ったらどうだろう。</li> <li>・塩田地域全部で参加できるもっと大きなお祭りにしたらどうだろう。</li> </ul> <p>○自分の作戦がこれまでの学習や伝統を守り続けてきた人々の思いを踏まえた作戦かどうか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦についてそう考えた理由を示し発表させる。</li> <li>・これまでの学習の足跡と関わりがあれば指し示しながら発表するように促す。</li> <li>・友の作戦を聞く中で、自分と似た考えや同じ考えがあったら、自分の学習カードにメモをするように声かけをする。</li> <li>・これまでの学習を振り返り、作戦を練り直す必要性を捉えさせる。</li> </ul>	<p>7</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>20</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の作戦</li> <li>・学習の足跡</li> <li>・学習の足跡</li> </ul>
<p>整 理 ・ 発 展  ふ り か え り</p>	<p><b>【学習課題】保野祇園祭を守ってきた人たちは、なぜ保野地区で伝統を守り続けてきたのか、学習の足跡や地域の方の思いをもとに、班の作戦を考えよう。</b></p> <p>○学習課題について学習の足跡を確認しながら、班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩田地域の祇園祭にってしまったら、<u>保野地区の人たちの思いがなくなってしまう。</u></li> <li>・<u>祭りを楽しみに待っている人のために</u>祇園祭を絶対なくしたくない。</li> <li>・<u>形を変えずに保野祇園祭を守っていた人のために</u>、これからも残す方法はないかな。</li> </ul> <p>○自分の立場(誰・何に対する思いなのか)を整理し、班で作戦を練り直し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>努力して守ってきた人たちがいるので</u>、塩田地域全体で協力して参加者を増やしたい。</li> <li>・<u>原さんが「やりたい人は子どもでもうれしい」と言っていたから</u>、私たちが来年の祇園祭に参加しよう</li> <li>・<u>保野地区の人の保野祇園祭はなくしたくないから</u>、ポスターなどで興味をもってもらったり、全校のみんなに宣伝したりし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で学習の足跡を確かめ、自分の思ったことを自由に語り合わせる。</li> <li>・同じことを続けてきている大切さや伝統行事が地域を盛り上げ、地域を存続させてきたことなど、保存・継承してきた人々の思いや伝統を守る本質的な価値に迫る発言を拾う。</li> <li>・ホワイトボードに、それぞれの立場を示しながら班で作戦を再考させる。</li> <li>・机間指導しながら、方法は違うが思いは同じことなど、やり方、関わり方はいろいろな方法があることに気づかせる。</li> </ul>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボード</li> <li>・学習カード</li> </ul>

	<p>たい。</p> <p>・<u>保存・継承してきた方の努力や工夫の大変さを知ったから運動会の「ささら踊り」をもっとがんばろう。</u></p> <p>○これまでの学習から「伝統を守る」とは何か振り返る。</p> <p>・守ってきた人たちの思いを大切に伝えていくこと。</p> <p>・私が大人になっても残るもの。</p>	<p>これまでの学習や伝統を守り続けてきた人々の思いを踏まえて作戦を練り直したりすることを通して「伝統を守る」という考えを捉え直すことができたか。(発言・学習カード)</p> <p>【思・班・表②】【態②】</p> <p>・一人一人の伝統の捉え方を時間が許すまで、紹介したり発表させたりする。</p>	
--	--	--	--

### 参観の観点

- (1) 「受けつがれる保野祇園祭と人々の願い」は、子どもたちがこれからの保存や継承について、自分ごととして考えられる単元展開になっていたか。
- (2) 友の考えの根拠を自分の考えと比較し合ったりこれまでの学習や伝統を守り続けてきた人々の思いを踏まえて作戦を練り直したりしたことは、保存・継承することについて自分の「伝統を守る」という考えを捉え直す姿につながったか。

### 教材研究

#### 1. 学習指導要領の内容

<p>(4) 県内の伝統や文化について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。</p> <p>(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。</p>
--

### 素材研究

「受けつがれる保野祇園祭と人々の願い」～上田市内の獅子舞，保野祇園祭，塩田地域の文化財～

#### ・上田市内の獅子舞

上田市内の獅子舞は、その形の上から大きく二つに分かれる。一つは「太神楽獅子」、もう一つは「三頭獅子」と呼ばれる。保野獅子は、後者の「三頭獅子」に分類され、保野地区を含め、上田市内では八か所に伝承されている。

#### ・保野祇園祭と保野獅子，ささら舞，屋台囃子

塩田地区のほぼ中央に位置する保野は、中世には日を決めて市の立った場所として、近辺の経済を支

える一つの基点であった。

ここの鎮守の塩野神社の祇園祭は、令和6年現在から460年ほど前、京都の祇園社から素戔鳴尊（スサノオノミコト）の御霊をお迎えして始めたと伝えられている。

ある年大凶作で、祭りどころではないと休んだところ疫病が大流行した。獅子を踊って疫病を退散させることができたため、その後は凶作でも休まず続けてきた。

## 方法

7月1日のしめ張り儀式「天王下し」から始まり、同月第三日曜日の「本祭り」終了まで、すべて古いしきたりが守られて整然と祭りが進行する。第三土曜日、日曜日の二日間は行列が集落の上手口に入るとき、警固長による「注連切り」があり、奉迎の人たちは無病息災を祈って神輿の下をくぐる「天王くぐり」をする。大団扇と大幣を持つ天狗が先立ちで、虎型の頭をした三頭獅子が一文字笠に袴姿の囃子方の笛・太鼓の道ゆきの曲で、地区内の悪魔祓いをしながら進む。市神に移られたお旅所前と、翌日午後本社に帰られた広庭で、女子児童が花笠に浴衣手甲はばきの色鮮やかな早乙女の揃い姿で、大きな輪をつくりささらを摺って踊る。その後、天狗と一緒に雄二、雌一による三頭の獅子踊りがある。獅子舞には唄がつかないで、ささら舞の方に唄がたくさん入る。また、役付経験者による屋台囃子が奉じられる。

## 由来と伝承

保野祇園祭の由来は、五穀豊穰や無病息災、厄除けなどを基本とする。保野地区では、16世紀半ばに京都の祇園社を勧請して、その祇園祭を模して獅子が始まったといわれる。上田築城のときにも地固めに踊ったと言いつたえられている。城の地固めに由来するのは、領主に見てもらうことが自分たちの芸能を高め、認められやすいため、祝賀の際にも踊ったものと考えられる。

また、天災におののく農耕民の切実な願いを込めて、雨乞いに出されたり、溜め池の構築の祝いとして出されたりもした。降水量の少ないこの塩田地域にとって、このような神事芸能の目標が、その地域住民の豊かな生活への祈りの表現であることを示している。

（参考・引用文献 『上田市誌 民俗編（3）⑤信仰と芸能』 p.127～p.143）

**塩田地域の文化財** \*「保野の祇園祭（無形民俗文化財）」を除く

★神社、仏閣等

安楽寺	生島足島神社
	

常楽寺	別所神社
	

★その他建造物・石造物

保野塩野神社廻り舞台	舞田石造金王五輪塔	五加八幡社石灯籠
		

★五加八幡社と保野塩野神社の美術工芸品

佐久間象山書五反幟（五加八幡社）	木造狛犬（保野塩野神社）
	

素材の教材化

4年3組の子どもたちは、地区ごとの児童会行事や年中行事に進んで参加している様子が見られる。一方で、保野地区に住む子どもがいないため、「ささらはわかるけど、ししまいはわからない。」と感じている子どもが多い。全校児童の中には、ささら舞に参加する女子児童が何人もいる。参加している理由を尋ねると「親が役員だからやっている。」や「何でやるのかはよく知らない。」と答える子どもも見られた。古くから伝わる伝統的な行事を保存・継承していく人々の工夫や努力、願いに関心を寄せるまでには至っていない子どもが多いことがわかる。

そこで、保野祇園祭の由来や歴史、これまでの取り組みのほか、そこに関わる人々の工夫や努力、願いについて調べる学習を取り入れ、その中で、保野祇園祭を現在まで守り続けてきた意味、保存・継承に力を尽くす人々がもっている願いの実現のために自分たちにできることなどを考えさせたい。また、これらの学習は、実際の様子や物を見たり触れたり、人と関わる活動（聞き取り調査）をしたりしながら、保存・継承に携わる人々の伝統を守り続ける思いを捉えさせたい。

このような学習によって、保野地区の人々の願いを考えるとともに、自分自身も塩田地域の一員として、古くから伝わる年中行事に対して、主体的な参加になったり、これからの保存・継承を自分事として考えたりしてほしい。

本時は、保野祇園祭のこれからについて、守り続けていくための作戦を各自で考えた子どもたちが、班で「保野祇園祭を守り続けていくための作戦」を考える場面で、友の考えの根拠を自分の考えと比較し合ったりこれまでの学習や伝統を守り続けてきた人々の思いを踏まえて作戦を練り直したりすることを想定している。そこで、今までの授業の内容を壁に掲示し（学習の足跡）、これまでの学習や地域の方の思いを想起させ、班で行動させながら、本時と関わりのある学習を話し合いながら振り返らせたい。

また、一人一人の作戦を班で一つの作戦に練り直す場面では、各自の考えが消えないように、ホワイトボードに各自の立場や思いの根拠を視覚的に示させたい。これらを通して、保存・継承することについて自分の「伝統を守る」という考えを捉え直すことができることを願う。

### 中塩田小学校の研究の成果

研究から、次の三つのことがわかった。一つ目は、「地域素材は教材との出合わせ方の工夫で小さな疑問がたくさん生まれ、やがてその小さな疑問が『単元を貫く問い』に成長していく（学びの誕生）」こと。二つ目は、「子どもたちは地域と関わる活動の中で大人の実力や地域の支えに気づく（学びの広がり）」こと。三つ目は、「地域の想いや願いを知った子どもたちの学びは未来志向の探究につながる（学びの深まり）」こと。この三つの学びが束ねられたところに構想する社会科学習により、子どもたちが「思わず語り合いたくなる」主体的な学びの姿が育つと言える。

### 中塩田小学校の研究の今後の課題

授業構想に課題が残った。作戦を立てる場面で、「子どもたちは自分が参加できる作戦をどんどん立てていこう」と思って単元展開を考えたが、子どもたちは保存会の方の話を伺うにつれ、これまでの継承の仕方や大人の実力を理解するとともに、その想いを尊重した考え方になっていった。

教師は教材研究をするとき、争点を作るために子どもの捉えを「こうであるはず」「こうでありたい」と考えてしまうことが往々にしてあるが、こうした思い込みや先入観をもちず授業を構想していく大きさを痛感した。

## 2 中塩田小学校における研究協議Ⅱについて

### (1) 概要

小学校の社会科において「地域素材」を活かした学習が、子どもの学びにとって不可欠であると考え、そこで、「地域を学ぶ」をコンセプトに地域巡検を計画した。

### (2) 活動内容

塩田平ボランティアガイド会長大口さんの解説で塩田地区を学ぶ。塩田平にある神社仏閣をめぐり、そこに安置されている仏像や文化財について話を聞くだけでなく、そこに息づく塩田平に住む人々のおもいに触れる。

### (3) 見学場所

前山寺・中禅寺・塩野神社



(4) 見学時間 14:20～15:40 (80分間)

(5) 参加者からの感想

- ・近いのになかなか行ったことがなかった塩田の前山寺や中禅寺など重要文化財がたくさんあることに感動した。またゆっくりと訪れたい。
- ・信州の鎌倉の一角をガイド付きで案内してもらった塩田地区巡検は新たな発見、そしてよさの再発見ができ有意義なものとなった。
- ・実際に歩いて文化財を見ることで思い入れが変わってくるなあと考えた。自分の地域ももう少し歩いて見てみたいと思う。
- ・塩田の文化財を見て回ることは、よい研修になった。30台近い車での移動、時間延長など実施には難しい面がある。もし今後行けるとしたら、1か所、現地で見学・解散だとよい。
- ・意義深い研修だが、かなり暑い。(かといって短時間過ぎても意味がないので難しいとは思う。)



(6) 当日説明していただいた塩田平ボランティアの会の方からのお手紙

- ・絶好の研修日和となり、私どもも楽しく明るい気持ちで御案内することが出来ました。先生方も真剣に耳を傾けて真摯に取り組んでいただいている事を身を以て感じながらご案内をすることが出来た事、本当にありがとうございました。
- ・(当日参加された先生方の感想を送付した後) 絶好の研修日和となり、私どもも楽しく明るい気持ちで御案内することが出来ました。先生方も真剣に耳を傾けて真摯に取り組んでいただいている事を身を以て感じながらご案内をすることが出来た事、本当にありがとうございました。

(7) 成果と課題

- 実際に地域を歩いて教材研究することのよさを感じ、今後の授業づくりに活かす機会を作ることができた。
- 研究協議で、座って話を聞く活動やグループでの話し合い活動もいいところはあるが、どうしても知識量や経験の差から学び方が受け身になってしまう人がいる。しかし、実際に見て歩いたり、詳しい人に教えてもらったりすることで参加者が平等に学ぶことができよかつた。
- 地域巡検は天候に左右されるところもある。また、今回は車で移動した時間や待っている時間もあり、時間が延長してしまったので、優先順位を決めておくなど、臨機応変に対応できるとよい。
- 地域巡検をした内容をどう教材化できるかなど、授業に繋がる視点を入れるとさらによい。

### 3 第六中学校の実践から

#### (1) 研究テーマ

社会事象を多面的・多角的に思考し、生徒が自ら学びを深めていく社会科学習はどうあったらよいか

#### (2) 研究の概要

「社会事象を多面的・多角的に思考する」「自ら学びを深める」生徒を育てるために、ギャップのある資料を対比させて子どもたちのイメージを揺さぶることで、多面的・多角的に物事を判断する力を養うことができると考え、経済発展を遂げている面と発展途上の面が共存するアフリカ州を題材として取り上げて研究を行った。

また、その中で生徒が自ら学びを深める意欲を高めるために、アフリカに対するイメージを揺さぶられた生徒の言葉を元に単元を貫く問いを設定する取り組みが大切であると考え、実践を行った。

#### (3) 指導案

**単元名** 「世界の諸地域 アフリカ州」

#### 単元設定の理由

本学級の生徒たちは、これまでの社会科の学習で、地球の姿や世界の気候について学習してきた。1学期に学習した「気候帯の学習」では、各地の気候の特徴を雨温図から読み取り、その気候に暮らす人々の生活の様子を衣食住の視点から自分たちで調べまとめることで大まかに捉えることができた。そして生徒らは、もっと世界の様子について知りたいという願いをもつようになった。また気候帯について調べる中で、タブレットを使ってスライドにまとめたり、友だちの発表を聞いたり、考え合ったりする中で、友とつながり関わり合いながら、自分の学びをより深めていくことができ始めている様子が見られる。疑問をもち、それを言語化することも積極的に行うことができる。一方で、根拠に基づいた考えをもったり、まとめたりすることが苦手な生徒が多い。またつぶやきなどは出やすいが、説明や自分の考えを発表するのに抵抗のある生徒もいる。

そこで、世界の諸地域を学ぶにあたり、「アフリカ州」において比較的自分の考えをもちやすく、根拠を明確にしやすい「発展している豊かさ」と発展の負の側面としての「貧しさ」のギャップを用いて、生徒らの学習意欲を高めたいと考えた。そして世界の諸地域の中で最初に学ぶ単元として生徒らの言葉を用いて単元を貫く問いを設定したり、ICTを活用し自らの疑問や学習課題を解決していったりすることを通して、アフリカ州のもつ地域的特色を、自然的、歴史的、社会的要因と関連付けながら多面的、多角的に理解させたいと願った。また、今後の地理や歴史、公民の学習を通して、日本や自分が課題とどう向き合いも続可能な社会づくりと関わっていけるかという、社会形成への参画に繋がりたいと願い、本単元を設定した。

#### 単元の目標

##### 【知識および技能】

○アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現

れ方が異なることを理解している。

○アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。

**【思考力、判断力、表現力等】**

○アフリカ州において、地域で見られる地域的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。

**【学びに向かう力、人間力等】**

○アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

**単元の指導計画（全4時間）**

学習過程	評価規準
1 アフリカ州をながめて	・広大な砂漠をもつ自然、古い歴史と伝統的な文化、農業や鉱業を中心とした産業などの特色を概観し、理解している。（知識・技能）
2 写真から見るアフリカ州の特色【本時】	・写真から見られるアフリカ州の特色について、クロームブックを用いながらグループの友達とともに調べ、調べた内容を他者へ説明することができる。（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が調べた情報と他者から得た情報を踏まえながら、現在のアフリカ州とはどのような地域なのかを、自身の言葉で説明している。（思考・判断・表現） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"><b>【期待する反応（例）】</b> アフリカ州は貧しい地域もあるが、豊かな地域もある。 アフリカ州は貧しいと思っていたが、実はちがうことがわかった。</div>
3 アフリカ州の産業と新たな開発	・アフリカ州の農業と工業の特色を様々な資料の関連付けから読み取っている。（知識・技能） ・アフリカ州の産業から、国際支援が必要な背景を多面的・多角的に考察している。（思考・判断・表現）
4 発展に向けた課題	・写真や表から、アフリカ州では都市化が進む一方で、農村地域との格差や生活水準が異なることを説明している。（思考・判断・表現） ・現在のアフリカ州がもつ課題について、三つの視点（都市化、人口増加、環境問題）を踏まえて理解している。（知識・技能）

**本時案**

**主眼**

気候の違いやそこに住む人々の生活について調べたりまとめたりしてきた生徒たちが、アフリカ州がどんなところなのか考える場面で、6枚の写真に着目し、その内容や様子、場所などについて一人一人調べ、分かったことや思ったことを発表し合うことを通して、アフリカ州の単元を貫く問いを設定することができる。

**本時の位置（4時間扱い中第2時）**

前時：アフリカ州の自然環境や歴史について調べてまとめる。

次時：モノカルチャー経済について学ぶ。

展開

	学習活動 ・予想される児童の反応	・教師の支援 〈資料〉 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間
問題把握	①前時で出たアフリカ州のイメージをもう一度挙げて確認する。 ・砂漠 ・動物 ・貧しい ・金	・前時で挙げたアフリカ州のイメージに合う写真を貼ることで視覚的にアフリカの様子を捉えやすくして発言するよう促す。	5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習問題 アフリカ州ってどんなところなのだろう。</div> ②アフリカ州に関する 6 枚の写真から分かったことや思ったことを出し合う。 ・何の写真なんだろう。・この写真知っている。 ・何か運んでいるね。 ・これパソコンで授業しているの？	・6 枚の写真を黒板に提示していく。写真についてパッと見て感じることや分かることを発言するように促す。	
問題追究	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習課題 6枚の写真についてタブレットを使って調べ発表しよう。</div> ③アフリカ州に関する提示された写真をタブレットで調べ、スライドにまとめ班の中で発表する。 ・少女が弱っているのを待っている鳥 ・カカオ農園で働いている子ども など	・班ごと写真についてタブレットで調べ、スライドにまとめるように伝える。 ・班の中で発表するように促す。	25
整理	④提示された写真について全体で確認する。 ⑤今日学習したことをもとに学習問題に返って、分かったことや思ったことを記入する。 ・アフリカ州は貧しいところもあるけど、豊かそうなところが見られる。	・発言を促して、写真の説明を黒板に短く書き加える。	5
	⑥分かったことや思ったことを発表し合い、それをもとにアフリカ州の単元を貫く問いを設定する。 ・アフリカ州って貧しいのか、それとも発展しているのか。どっちなのかよくわからない。 ・アフリカ州を学ぶ上でのテーマを挙げる。	・分かったこと、思ったことをスプレッドシートに書くように促す。  ・生徒たちの発言から単元を貫く問いを設定する。	5  10
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">単元を貫く問い アフリカ州は本当に貧しいのか？</div>	〈評価〉 ・写真を調べて分かったことをまとめ、比較して考えたことから、学習問題に対して自分なりに分かったことや思ったことをスプレッドシート記入することができる。 ・記入の進まない生徒に対しては、スプレッドシートを見て、友達の意見を参考にすることで、自分なりに考えをもてるようにする。	

## 授業を見ていただく視点

- (1) 6枚の写真を提示し生徒たちがタブレットを使用し調べ、分かったことを共有化したことは、単元を貫く問いを設定することにつながったか。
- (2) 生徒の意見に基づき、単元を貫く問いを自分たちで考えさせていくことは、友だちと関わり合いながら生徒たちが自ら学びに向かい、主体的に学習することにつながったか。

## 資料 本時で使用する6枚の写真



## 第六中学校研究の成果

- ・生徒の意識にギャップを生むような写真を用意しクロームブックでその写真について調べたことで、自ら問いを持ち意欲的に追究する生徒の姿が見られ、世界の諸地域の導入の授業として有効な手立てだったと思われる。
- ・その後の授業において、アフリカ州の学習を進めていくうえで、他人事ではなく自分だったらという捉え方で自分なりに学習問題に対して考えをもつことができた生徒が多かった。
- ・その他の州の学習に移っても、写真などの資料に対してどのような写真でどのようなことが読み取れるのか、興味関心をもてる生徒が増えた。

## 第六中学校の研究の今後の課題

- ・アフリカ以外の地域でも、興味関心を引き出せるような教材研究を進めていきたい。
- ・生徒の言葉から単元を貫く問いを設定する活動は、できるだけ行っていきたい。ただし、設定する上で生徒にすべてを委ねてそこから言葉を引き出すことは難しい。ある程度の方向性をこちらから提示する必要があるが、誘導にならないようにしなければならない難しさをどのように解決するか。また知識も身につけなくてはならないため、それらが活用されるように学習問題を考えられるような資料を考えていかななくてはならない。

## 4 上田第六中学校における研究協議会Ⅱについて

### (1) 地域素材の発掘に向けた講演会【株式会社バリューブックス】

#### 会社概要について

- ・バリューブックスは、長野県上田市を拠点に、オンラインでの古本の買取・販売をメインの事業としている。
- ・現在は、オンラインだけでなく2つの実店舗「NABO」「バリューブックス・ラボ」、そして移動書店「ブックバス」の運営、様々な施設に本を寄贈する「BOOKGIFT Project.」など、本と人をつなぐ活動を広げてきている。
- ・問い合わせフォームを設け、「バリューブックスとこんなことをしたい!」「こんな人に本を届けたい」という願いをもち、たくさんの方々との協業を重ねてきている。
- ・ジェンダーギャップが生まれにくい会社づくりを目指し、様々な取り組みを行っている。

#### 企業の社会的貢献活動について

- ・「ブックバス」を走らせ、移動式本屋として日本各地を回るだけでなく、「ブックギフトプロジェクト」と称し、病院や保育施設など、様々な場所に本を届ける時の担い手としても走らせている。
- ・保育園、学校、病院、老人ホームといった様々な施設に本を寄贈する、「ブックギフトプロジェクト」を行っている。日々古紙回収にまわってしまう本の中からインターネット市場では値は付かないが、きれいで、手に取る人にとってはまだまだ楽しめる本を少しずつ集め、寄贈に活用している。
- ・状態が悪い本をリサイクルし、「本だったノート」を作成している。単にまとめて古紙回収に回すほうが、合理的な側面もあるが、「本だった」再生紙をつくり、多くの人に使ってもらえることができれば、本の価値やその循環について考えるきっかけを生み出すことができるのではないかと考え始まった取り組みである。

#### 社会科の授業での教材化について

- ・企業内の取り組みとして「ジェンダーギャップ」の解消に努めている。バリューブックスの取り組みについて知ること、公民分野の「生産と労働」において、労働の意義や労働の権利、労働環境の変化と課題、について学習を深めることにつながるのではないかと。
- ・「ブックギフトプロジェクト」は公民分野の「企業の社会的責任」について考える学習で、具体的な取り組みとして提示することができるのではないかと。
- ・「本だったノート」の作成は、地理分野や公民分野での、「循環型社会」について学ぶ学習において紹介することで、具体的なイメージが持ちやすいのではないかと。

### (2) 研究協議会Ⅱのまとめと課題

今回企画した巡検を通して、日ごろ授業で使用する用語や事象を、教師自らが体感することで、子どもにも具体を交えて発信することが期待でき、地域にある社会的事象に触れる機会をもつことが重要であることを共通意識として確認できた。一方で、中学校では定期テストと進路に向かって学習を進めていく中で、地域素材を教材として発掘する機会が限られていることが改めて課題として浮かび上がった。定期的に教員どうしで教材発掘を実施し、地域に眠る良質な素材を共有する作業は、教師にとっても教材として触れる子どもにとってもメリットがあるのではないかと考えられる。

## 五 研究のまとめと課題

教育課程会場校の授業を参観したり、教育課程研究協議会午後の研修を企画運営したりしていく中で、社会科の授業改善に向けて、日ごろ授業を行う上での取り組みや悩み、課題を出し合うことでともに学び合うことができた。本年度は特に、地域素材の活用について話し合ったり、どう教材化していくのかについて考える時間をとったりしていった。その中で、本年度特に話題となった点について、以下にまとめる。

### 【成果と課題】

- ・研究テーマである「地域素材の活用」について、授業を参観させていただく中で、どう地域の方と出会うのか、どれだけ素材と触れ合うかによって、子どもたちが社会的事象を自分事として考える熱量が大きく変化するように感じた。中塩田小学校の先生は、獅子舞いのお祭りに使用する道具だけでなく、保存会の方と交流するなど、「人、もの、こと」と触れ合うことで子どもたちが自分事としてお祭りへの参加について考える素地を作っていた。
- ・地域素材をどう生かしていくのか、どう素材を発掘し、素材研究をしていけばいいのか多くの先生方と情報を交換して考えていきたい。(特に地域の素材を学校の学びとをどう結ぶのか今後も研究していきたい)
- ・授業実践の蓄積の薄さ  
現在ある実践(発掘した素材)をどう継承し、使いたいときに探せるかを考えていく必要がある。地域素材はどの学校でも共通して使用できない難しさがある。だからこそ、その地域を誇りに感じることもできる教材にもなりえる。素材研究の労力は必要だが、同じおもいをもった教員同士で考えていくことで、研究も進んでいくのではないだろうか。

### 【次年度へ向けて】

- ・社会的事象を自分事として考えるため、地域素材の重要性を強く感じる事ができたので、来年度も学習をより身近に、子どもたちを引き寄せる地域素材の発掘や素材研究などをテーマに据えて研究をしていきたい。
- ・来年度は教育課程がないので、社会科学習指導委員会の中で授業公開を行い、上小の先生方と共に地域素材を活用した学習について研究を深めていきたい。